



現地ルポ 北の地、長万部から



「長万部町が毎年行っている『おしゃまんべ毛がにまつり』にも学生さんが来てくれます。地域行事を維持していくには、若者の力は欠かせません」とし、「近

町の人は

「会えないか？」
2017年11月20日、本学の本山和夫理事長の呼びかけに応じた長万部町の木幡正志町長は、都内で面会した。
本山理事長は「理事会で方針は決定している。詳細な計画については、継続して検討する」とした上で「葛飾キャンパスの充実を図りたい。葛飾区と平成21年に締結した基本協定において、平成29年度内に土地を購入することは決まっております。これに基づいて理事会で方針を検討してきた。23区内の定員を規制する流れもある。葛飾キャンパスには基礎工学部もあること

今回のキャンパス再編計画では、「基礎工学部の長万部での全寮制教育の解消」が大きな反響を呼んだ。新聞会では2月27・28日の2日間、現地取材団を北海道長万部町へ派遣した。長万部町は、今回の再編計画をどう受け止めているのか、町長・商工会会長・町民などに取材をした。
【長万部Ⅱ現地取材団（青木紀裕、進藤剛志、露口博貴）

不安や動揺の声も



▲「歓迎 東京理科大」のタペストリーが並ぶ長万部駅前中央商店街＝進藤剛志撮影

「歓迎 東京理科大」のタペストリーが並ぶ長万部駅前中央商店街＝進藤剛志撮影
「歓迎 東京理科大」のタペストリーが並ぶ長万部駅前中央商店街＝進藤剛志撮影

隣の商工会からも、うらやましがられます。長万部キャンパスは、私たちの自慢なんです」とと楽しように語った。その一方で「学生さんがいなくなってしまうとなれば、町の活気がなくなってしまうし、町勢面にも影響があるんじゃないでしょうか」と、キャンパス開設まな

揺れる長万部

今回の発表の背景には、多いときで450人の学生がおり、4人部屋を5人部屋にすることで対応できていない現状がある。定員300人程度の長万部キャンパス学生寮には、多いうきで450人の学生がおり、4人部屋を5人部屋にすることで対応できていない現状がある。理事長はこうした状況を「学生が勉学に励むことのできる環境ではない」と懸念してい

基礎工に代わる全寮制も

理事長は「発表のどこにも、長万部からは撤退する」と書いていない」と一連の報道を否定。「詳細については固まっていないうし、理事会で話していく中で、変更もあり得る」とし、長万部町と連絡を取り合っていくことを約束した。

「歓迎 東京理科大」のタペストリーが並ぶ長万部駅前中央商店街＝進藤剛志撮影
「歓迎 東京理科大」のタペストリーが並ぶ長万部駅前中央商店街＝進藤剛志撮影

隣の商工会からも、うらやましがられます。長万部キャンパスは、私たちの自慢なんです」とと楽しように語った。その一方で「学生さんがいなくなってしまうとなれば、町の活気がなくなってしまうし、町勢面にも影響があるんじゃないでしょうか」と、キャンパス開設まな

理科大と

長万部のあゆみ

基礎工学部は、1987年に「工学の基礎を横断的に教育する」ことを目的に設立された。1年次は北海道長万部キャンパスでの全寮制で全人教育を行い、2年次以降は千葉県の野田キャンパス（2013年から葛飾キャンパス）で教育を行うという、全国的にもユニークな学部として発足した。

「歓迎 東京理科大」のタペストリーが並ぶ長万部駅前中央商店街＝進藤剛志撮影
「歓迎 東京理科大」のタペストリーが並ぶ長万部駅前中央商店街＝進藤剛志撮影

隣の商工会からも、うらやましがられます。長万部キャンパスは、私たちの自慢なんです」とと楽しように語った。その一方で「学生さんがいなくなってしまうとなれば、町の活気がなくなってしまうし、町勢面にも影響があるんじゃないでしょうか」と、キャンパス開設まな

理科大と

長万部のあゆみ

基礎工学部は、1987年に「工学の基礎を横断的に教育する」ことを目的に設立された。1年次は北海道長万部キャンパスでの全寮制で全人教育を行い、2年次以降は千葉県の野田キャンパス（2013年から葛飾キャンパス）で教育を行うという、全国的にもユニークな学部として発足した。



▲長万部駅前のロータリー＝進藤剛志撮影

「歓迎 東京理科大」のタペストリーが並ぶ長万部駅前中央商店街＝進藤剛志撮影
「歓迎 東京理科大」のタペストリーが並ぶ長万部駅前中央商店街＝進藤剛志撮影

隣の商工会からも、うらやましがられます。長万部キャンパスは、私たちの自慢なんです」とと楽しように語った。その一方で「学生さんがいなくなってしまうとなれば、町の活気がなくなってしまうし、町勢面にも影響があるんじゃないでしょうか」と、キャンパス開設まな

取材後記

長万部駅を降りると真っ先に目につくのは「東京理科大学のある町、長万部町へようこそ」という看板である。今回の現地取材で、理科大生が長万部町の人々にどれほど親しまれているかが多く聞かれた。「おしゃまんべ毛がにまつり」や「よさこい祭り」といった地域行事を運営面から支えたり、地域の子どもたちに勉強を教えるボランティアに参加したりする学生も多

「歓迎 東京理科大」のタペストリーが並ぶ長万部駅前中央商店街＝進藤剛志撮影
「歓迎 東京理科大」のタペストリーが並ぶ長万部駅前中央商店街＝進藤剛志撮影

隣の商工会からも、うらやましがられます。長万部キャンパスは、私たちの自慢なんです」とと楽しように語った。その一方で「学生さんがいなくなってしまうとなれば、町の活気がなくなってしまうし、町勢面にも影響があるんじゃないでしょうか」と、キャンパス開設まな

取材後記

長万部駅を降りると真っ先に目につくのは「東京理科大学のある町、長万部町へようこそ」という看板である。今回の現地取材で、理科大生が長万部町の人々にどれほど親しまれているかが多く聞かれた。「おしゃまんべ毛がにまつり」や「よさこい祭り」といった地域行事を運営面から支えたり、地域の子どもたちに勉強を教えるボランティアに参加したりする学生も多

キャンパス再編を追う 久喜キャンパスは今

2012年からキャンパス跡地で毎年開かれていた。昨年も藤嶋昭学長（当時）をはじめとした本学の教員が訪れ、理科の楽しさを地域の子どもたちに伝えた。市は本年度も開校に向けた調整を行っている。



▲長万部キャンパスの男子寮＝進藤剛志撮影

寮制教育の評価は高い」として「その良さを理解した上で、さらに高めていきたい」と語った。そして「よきパートナーとして、地域とともに歩んでいきたい」と、今後の長万部町との連携に前向きな姿勢を見せた。

また世界初となる、長万部町との毛ガニの共同研究に触れ「大学としても協力を続けていく」と述べた。

「歓迎 東京理科大」のタペストリーが並ぶ長万部駅前中央商店街＝進藤剛志撮影
「歓迎 東京理科大」のタペストリーが並ぶ長万部駅前中央商店街＝進藤剛志撮影